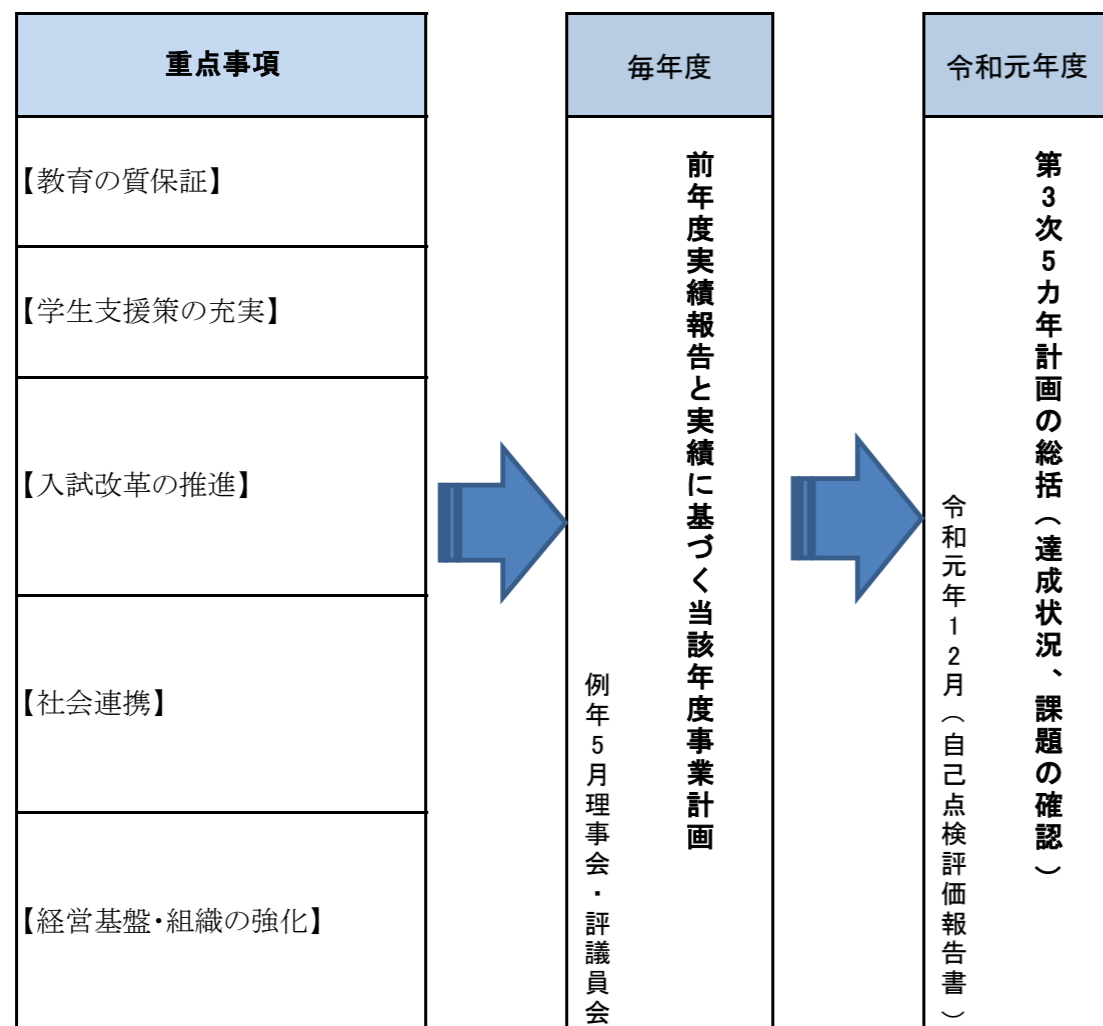
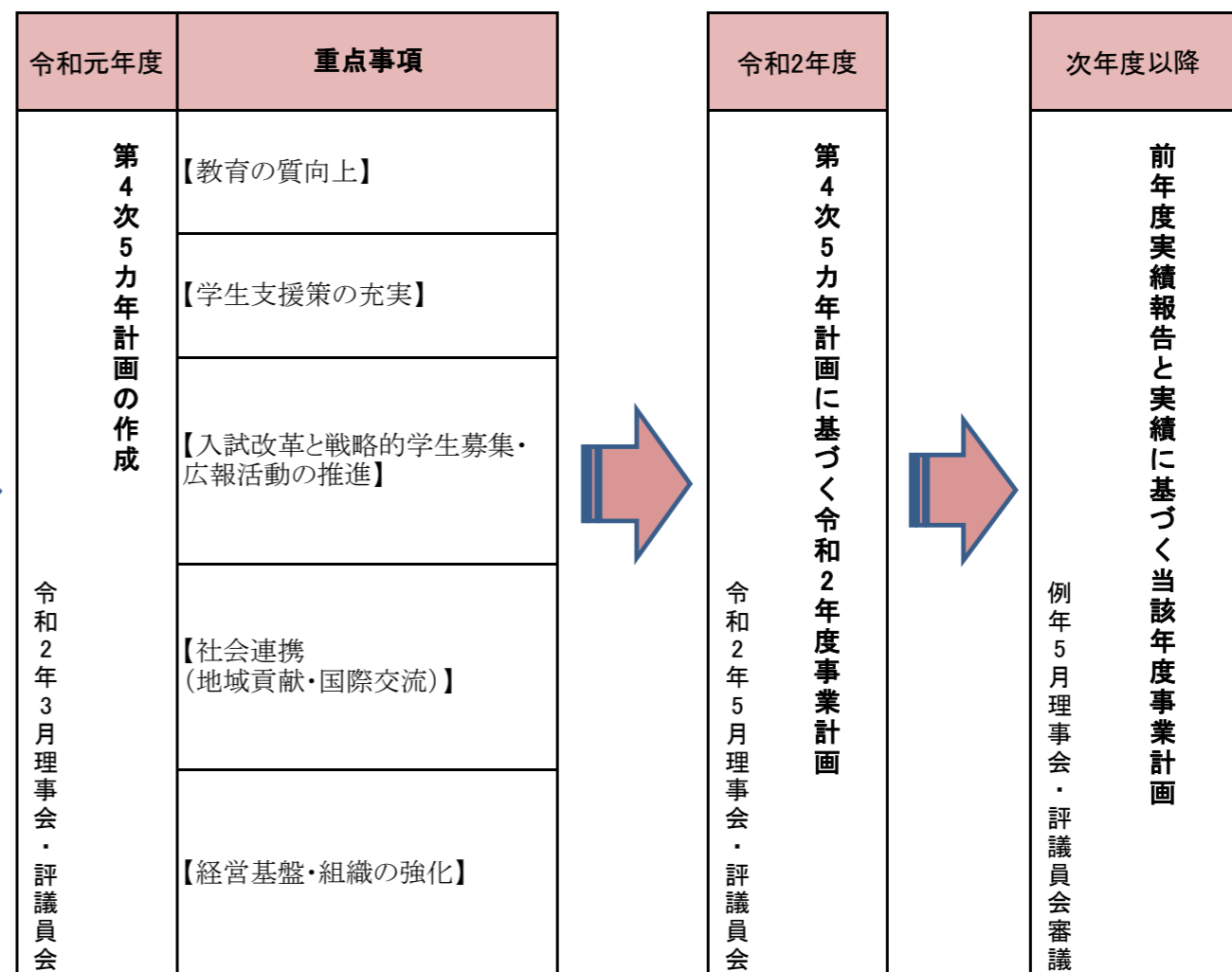


本学では、「50年目の原点回帰」～理念継承のための変革～をテーマとし、5つの重点項目（「教育の質向上」「学生支援策の充実」「入試改革と戦略的學生募集・広報活動の推進」「社会連携（地域貢献・国際交流）」「経営基盤・組織の強化」）を定め、第4次5カ年計画を定めています。さらに、毎年度、前年度取組状況報告とその実績に基づく当該年度事業計画を立てることで、中期計画の進捗管理を行っています。今回、別紙のとおり進捗状況（今までの取組状況報告と令和4年度計画）を取り纏めましたので、公表いたします。

第3次5カ年計画 〈平成27年度～令和元年度〉



第4次5カ年計画 〈令和2年度～令和6年度〉



教育の質向上

中期目標・計画 (令和2年度～令和6年度)		中期行動計画 (令和2年度～令和6年度)	評価指標 (数値目標)	責任委員会等	令和3年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)	令和3年度事業報告 (評価指標がある場合は結果を踏まえて記載)	令和3年度 計画 達成率	令和4年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)
1	教学マネジメント体制及び組織的教育展開の強化による学修者本位の教育への転換	i		教学マネジメント会議 教育の質向上委員会	文部科学省への変更承認申請に向け準備を進め、また確定したカリキュラムにおいて、以下(中期目標・計画/中期行動計画の1)に記載する教学マネジメント体制を構築する(教学マネジメント会議)。	教学マネジメント会議において発令した「カトリックの愛の精神を基盤とした看護専門職になるためのカリキュラム検討会」において、建学の精神に基づく人格の成熟と看護実践者としての成熟を目指した、新たな教育目標、ポリシー並びにカリキュラムを検討し、完成に至った。その内容に基づき文部科学省へ申請を行い承認を得た(教学マネジメント会議)。	100	※中期目標達成済。策定したカリキュラム等の運用・評価等については別項目にて記載(教学マネジメント会議)
					・各レベル(大学・学部・科目)における質向上の責任及び連携体制を明確化しPDCAサイクルの機能化を図る。(教学マネジメント会議、教育の質向上委員会)(教育の質向上委員会) ※令和2年度計画の継続(教育の質向上委員会)	・昨年度に引き続き、アセスメントポリシーに記載する評価指標を中心に、各種調査、その結果を踏まえた課題改善への取組を実施、必要な内容を教学マネジメント会議へ報告した。また、学修支援に関する必要な情報については、委員会内において学生支援センター(学修支援部門)との連携を図った。(教育の質向上委員会)	100	・昨年度に引き続き、アセスメントポリシーに記載する評価指標を中心に、調査、分析、課題改善に向けた取り組みを実施する。また結果や課題改善策等については、適宜、教学マネジメント会議等へ報告する。(教育の質向上委員会)。 ・科目レベルのPDCAサイクルについて、委員会としての確認・運用方法等について検討する(教育の質向上委員会)。
					・引き続き、各種委員会からの報告を受け、必要に応じた対応方針を示す(教学マネジメント会議)	・既存のアセスメント・ポリシーに関し、本学の教育課程、その他の取組が3つのポリシーに基づき適切に機能しているか、より評価が可能となるよう、見直しの検討を実施した。更に、具体的な実施方法、責任委員会、実施目的等を明示したアセスメントチェックリストの検討を実施した。上記見直しに関しては、より本学に特化した内容を検討すべきとの結論に達し、次年度への継続審議とした(教学マネジメント会議)。 ・アセスメントポリシーに明示されている評価指標に関しては、各種委員会からの報告を受け、必要に応じ、大学方針としての改善依頼等を実施した(教学マネジメント会議)。		・継続検討としたアセスメント・ポリシー、アセスメントチェックリストの作成を行う。作成にあつては、本学の特徴も踏まえ作成し、更に作成目的を明確にする。作成した内容については教職員の共通理解を図りPDCAサイクルの機能化を図る。(教学マネジメント会議) ・引き続き、各種委員会からの報告を受け、必要に応じた対応方針を示す(教学マネジメント会議)
		ii	ディプロマ・ポリシーを基とした科目編成・教育の実施を図る。	学生満足度調査 授業評価アンケート カリキュラム評価 卒業生アンケート 卒業時到達度アンケート	・継続作成中である現行カリキュラムにおけるカリキュラムマップを完成させ、教職員は各授業科目相互関係・履修順序の再認識に活用し、学生は、自らの学修過程を常に意識しながら進めること、学修の積み上げ確認に活用する(教育の質向上委員会)。 ・新カリキュラムについては作成したカリキュラムマップ、また今後作成予定のカリキュラムツリーを通じ、上記に関する共通認識を図る(教育の質向上委員会)	・令和4年度入学生からのカリキュラムマップについては、カリキュラム検討会において作成され、本委員会も共催するカリキュラム研修会(以下のivに記載)等において、ディプロマポリシー達成に向けた体系的カリキュラムの理解に活用するとともに、学生には履修の手引きに掲載した。(教育の質向上委員会)	80	・2021年度以前入学生のカリキュラムマップの見直しを行う(教育の質向上委員会)。
					上記と同じ			
					iii	学修成果の把握・可視化と結果を踏まえた改善への取組を図り、その前提となる成績評価の信頼性確保に向けた学内基準・共通認識を図る。	・導入予定のディプロマサブメント(カリキュラムマップ作成が前提)、その他の指標(到達度アンケート等)も活用し、学修成果の把握を行う(教育の質向上委員会) ・アセスメントポリシーに記載する項目を評価することで、何を明確にし、どのように結果を活用するのかなど、調査の体系的実施に向けアセスメント・チェックリスト等の作成を行う(教育の質向上委員会)。	・アセスメントポリシーに記載する項目については、適宜、委員会等で調査・評価を実施し課題の有無を確認した。なお、アセスメントチェックリストに関しては、本委員会以外が管轄する項目が含まれることから、教学マネジメント会議において検討を行い、継続審議となっている。
Webclassにおけるディプロマサブメントを導入し、より有効に活用できるように様式の検討を行うとともに、年度内に実際の運用が可能になるよう対応を進める。(教育の質向上委員会)	・ディプロマ・サブメントに関しては、まず、対外向用(就職用等)として発行を開始したが、当機能を用いての学修成果把握までには至らず、継続した検討を要する。	70	・ディプロマサブメントに表示される内容の精査を行い、より有効に活用できるよう機能向上を目指すとともに、新カリキュラムにおける対応も進める。(教育の質向上委員会)					
			・全学共通の成績評価ガイドライン作成の必要性を含め検討し、必要と判断した場合は、具体的ガイドラインの作成を行う(教育の質向上委員会)	令和3年度においては、成績評価ガイドライン作成の必要性検討には至らなかったが、成績評価の信頼性確保の観点からは、学生に対する成績評価に関する異議申し立て制度の運用を開始した。	50	・全学共通の成績評価ガイドライン作成の必要性を含め検討し、必要と判断した場合は、具体的ガイドラインの作成を行う(教育の質向上委員会)		

中期目標・計画 (令和2年度～令和6年度)		中期行動計画 (令和2年度～令和6年度)		評価指標 (数値目標)	責任委員会等	令和3年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)	令和3年度事業報告 (評価指標がある場合は結果を踏まえて記載)	令和3年度 計画 達成率	令和4年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)
2	本学の特徴と社会動向を踏 まえた教育課程の再編成	iv	教学マネジメントを支える基盤の強 化としてのFD・SDの高度化と教学IR 体制の確立		教学マネジメント会議	定期的に「求める教職員像」を教職員に周知し、本学教職員としての 意識向上を図る(教学マネジメント会議)。	求める教職員像については定期的な周知でなく、始業式、新入教職 員ガイダンス、各種研修会の目的の明確化等、適切な場において活 用するものとする。(教学マネジメント会議)。	100	ー(各関連部署において、適切に活用)
					教学マネジメント会議 教育の質向上委員会 IR・SD推進室	新カリキュラムに向けて全学的に準備を行っており、教育基盤ともい える3Pの整備ができています。今年度は、旧カリキュラムの整理と評価 を具体的に実施し、今後の学修成果、教育成果を評価できるよう可視 化の評価指標をさらに検討していく必要があると思われる(教育の質上 委員会)。	令和3年度前期において新カリキュラム及び新3ポリシーが確定した。 これらを踏まえ、建学の精神、教育理念、ディプロマ・ポリシー等に基 づく体系的な教育の構築を図ることを目的としたカリキュラム研修会を 6回(カトリックセンター並びにロイアカデミア看護学研究センターとの 共催。教育の質向上委員会は4回共催)開催した。(教育の質向上委 員会) ・令和3年度事業計画に対する実施報告は i ～ iii において記載	100	・昨年度に引き続き、新カリキュラムに関する研修会をカトリックセン ター、ロイアカデミア看護学研究センターと共催にて実施し、建学の 精神、教育理念、ディプロマ・ポリシー等に基づく体系的な教育の実 施、他領域における取組の相互理解等を図り、教育の質向上を図る (教育の質向上委員会)。 ・教学マネジメントを支える基盤の強化につながるFD活動について、 継続して実施する(教育の質向上委員会)。
					IR・SD推進室	令和2年度に受講した職員に対しアンケートを実施し、プログラムの評 価を行った上で、引き続き教育プログラムを実施し、学内IR体制の基 盤づくりを行う(IR・SD推進室)。	教育プログラムは実施したものの、実施回数が限られたため、評価ま では至らなかった。	50	本年度も継続して教育プログラムを実施する。
		v	教育成果や教学に係る取組の積極 的公開を図る。	教育の質向上委員会 学生募集・広報戦略委 員会	・令和2年度計画の継続	・ホームページ上に学修成果に関する各情報を掲載に公表した。	100	・引き続き、学修成果に関する情報の積極的公表を行う。(教育の質 向上委員会)	
		i	カトリックの愛の精神を基盤とした看 護専門職を育成する教育課程を編 成する。	学生満足度調査 授業評価アンケート カリキュラム評価 卒業生アンケート 卒業時到達度アンケ ー	教学マネジメント会議 教育の質向上委員会	上記1の i と同じ(教学マネジメント会議)	上記1の i と同じ(教学マネジメント会議)	100	※中期目標達成済。策定したカリキュラム等の運用・評価等につい ては別項目にて記載(教学マネジメント会議)
ii	Society5.0に向けた人材育成を可能 とする教育課程を編成する。	現行カリキュラム及び2022年度入学生以降カリキュラムにおいて、文 部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の認定を目指 す(教育の質向上委員会)。	・教学マネジメント会議において「データヘルスサイエンス教育検討グ ループ」を発令し、学部・大学院・社会人教育を通じたデータヘルス サイエンス教育の強化を図るための検討組織を整備した(教学マネジ メント会議)。 ・上記検討グループの検討内容を基に、大学院における「データヘル スサイエンス看護学領域」の設定について検討(教学マネジメント 会議)。 ・学部全体カリキュラムの改正並びに2021年度本プログラムの評価等 も踏まえ、文科省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」につ いて検討し、2022年度カリキュラムにおけるプログラム(データヘルス サイエンス入門プログラム)を確定した(教育の質向上委員会)。 ・2021年度プログラムについては、その評価を実施し、プログラムの成 果(令和3年度末時点で修了した範囲)を確認した(教育の質向上委 員会)。			100	※学部教育における文科省「数理・データサイエンス・AI教育プログ ラム(本学プログラム名称:データヘルスサイエンス入門プログラム)」 に関しては、具体的運用・評価については教育の質向上委員会管轄 としたため、本会議としての計画設定なし。(教学マネジメント会議) ・昨年度に引き続き、大学院における「データヘルスサイエンス看護 学領域」について検討を行い、令和5年度開講を目指す(教学マネジ メント会議)。 ・2021年度カリキュラムにおけるデータヘルスサイエンス入門プログラ ムの申請(2022年5月申請)に向け準備を進めるとともに、2022年度 カリキュラムにおける同プログラム申請(2023年5月)に向けた本プログ ラムの評価の実施及び申請準備に取り掛かる(教育の質向上委員 会)。		
iii	保健医療福祉の動向を反映する保 健師助産師看護師養成所指定規則 改正の意図を踏まえた教育課程を 編成する。	上記1の i と同じ(教学マネジメント会議)	上記1の i と同じ(教学マネジメント会議)			100	※中期目標達成済。策定したカリキュラム等の運用・評価等につい ては別項目にて記載(教学マネジメント会議)		
iv	保健師・助産師教育の教育課程の 在り方(学部選択、別科、大学院)及 び大学院におけるクリティカルケア看 護における専門看護師課程の検討	教学マネジメント会議	専門看護師コースの新規設定に関しては、継続して検討を行う(教学 マネジメント会議)			専門看護師コースの新規設定については、聖マリア病院の特徴も 踏まえ、クリティカルケア看護学領域等の設定の必要性について確 認した。一方、現状等を踏まえ、本年度内の申請は実施しないもの とし、継続して課題・対策を検討する。 助産師課程の大学院移行については、まずは課題・対策等を確認 するものとした。(教学マネジメント会議)。	100	・専門看護師課程のクリティカルケア分野等の新設及び助産師課程 の大学院化の可能性について令和4年度も引き続き検討する(教学 マネジメント会議)。	
		i	幅広い総合的知識を応用し、現代社 会の問題解決に必要な力、課題発 見能力等を身につけるリベラルア ーツ教育の充実を図り、更に、看護大 学として、また本学の強みを活かした STEAM教育の在り方を検討する。		・教育の質向上委員会とも連携し、引き続きデータヘルスサイエンス 教育、リベラルアーツ教育・STEAM教育等のあり方について検討を行 う。(教学マネジメント会議)	・本学では従前より、キリスト教的人間観に基づく、生命の価値、人間 の尊厳について理解し、更に看護専門職を目指す者として、看護過 程の講義、演習等を通じて、看護実践の基盤となる倫理的判断力、 更に論理的・科学的思考力を養い、看護実践の場における諸問題を 発見し、解決するための力を養っている。また、新カリキュラムにお いては、データヘルスサイエンス教育の強化を図り、保健・医療・福祉の 分野における新たな価値の創造に向け、データ・AIを利活用する思 考、健康課題を分析し解決に役立てる思考を身に付ける教育を強化 している。(教学マネジメント会議)。	100	※カリキュラム編成に関しては中期目標達成済。実施を踏まえた評価 等については関連部署等も含め実施(教学マネジメント会議、他)	

中期目標・計画 (令和2年度～令和6年度)	中期行動計画 (令和2年度～令和6年度)	評価指標 (数値目標)	責任委員会等	令和3年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)	令和3年度事業報告 (評価指標がある場合は結果を踏まえて記載)	令和3年度 計画 達成率	令和4年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)
3 学生個々人の可能性を最大限に伸長する教育への転換と予測不可能な時代で新たな価値を創出できる人材の育成	ii 情報通信技術 (ICT) を活用した新たな手法の導入により、学生の主体的学びへの転換を図り、個々の能力や適性に応じた教育の提供を図る。		教学マネジメント会議 教育の質向上委員会 図書館運営委員会	<p>・予期せぬ新型コロナウイルスの流行により、急遽オンライン授業を導入する必要性が生じたが、学内教職員で支援を行い、大きな問題は生じず講義を遂行することが出来た。</p> <p>・2020年より大学施設内に導入されたオンライン講義収録・配信システム (Spider Rec等) については、学内のオンライン環境やパソコンの性能等に課題が残り、本格的な運用に至らない状況である。次年度運用ができるように調整を行う (教育の質向上委員会)。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が終息した後においても、ICTを活用し学生の主体的学びを推進できるよう、継続して検討する (教育の質向上委員会)</p> <p>引き続き、自宅学修をサポートするオンラインサービスを拡充する。 (図書館運営委員会)</p>	<p>・学内のオンライン環境やパソコンの性能等に課題があった点については、国の助成金を活用して新規パソコンの購入・整備を行った。</p> <p>令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン及び対面授業の併用による授業形態となったため、コロナ終息後におけるオンライン授業等のあり方の検討には至らなかったが、以下の取組を実施した。</p> <p>・感染拡大状況に合わせて、対面講義とICTを活用したオンライン講義を併用し、学生の学修を支援した。</p> <p>・感染拡大時にはスムーズにオンライン講義に切り替えられるように教務課と感染拡大予防部会 (リスク管理委員会) が細やかに連携を取り、状況に応じて講義の形態を臨機応変に変更した。</p> <p>・感染対策上、自宅待機等となった学生に対しては、対面式での講義であっても、自宅から受講可能となるよう対応した。</p> <p>1) Webclassに公開する資料を整備した。 オンラインサービスに対するガイダンス資料を作成しWebclassで公開した。(アクセス数:224)</p> <p>2) 図書館のオンライン貸出機能を整備した。 オンラインで図書館の所蔵検索と予約ができるよう整備した。(予約数:230件)</p> <p>3) リモートアクセスサービスを拡充した。 リモートアクセスが可能な電子資料を拡充し、文献検索や文献収集を学外から利用できるよう整備した。(文献検索データベースへのアクセス総数:29,395)</p> <p>4) 授業と連携しオンラインガイダンスを実施した。 ①2年生に対し「英語Ⅱ」における課題図書の見直し、貸出をサポートするため、図書館のオンライン予約についてガイダンスを実施した。 ②3年生に対し「看護研究Ⅰ」における文献検索ガイダンスを実施した。 (図書館運営委員会)</p>	50	<p>昨年度、導入したパソコンについて、今後の授業において教員および教務課が運用できるよう引継ぎを行う (教育の質向上委員会)。</p> <p>令和4年度も感染収束の見込みが立たないことから、引き続き、感染状況に応じ、臨機応変に対面及びオンライン講義に対応していく。また、感染収束の見込みが立った場合は、収束後のICTを活用した授業、学修の在り方について継続して検討していく。</p> <p>1) Webclassの資料整備 各種ガイダンス資料 (利用案内、蔵書検索、文献検索等) の作成、公開</p> <p>2) オンラインサービスの整備、拡充 ① 図書館のオンライン貸出機能の整備 ② 文献郵送サービスにおけるオンライン受付の拡充を図る</p> <p>3) リモートアクセスサービスの拡充 学外から電子ジャーナルにアクセスできる環境を整え、文献の入手を容易にする (図書館運営委員会)</p>
4 カトリックの愛の精神に基づく大学における看護基礎教育と聖マリア病院における看護実践の質向上 【2020.5修正】	i 教育モデル病棟構築の継続と実習指導者 (学内教員を含む) の質向上を図る。		教育の質向上委員会 連絡協議会 図書館運営委員会	<p>① 令和2年度 理念教育の評価を行い、取組みを継続する。令和3年度より、聖マリア病院看護部キャリアラダーを改定し、豊かな人間性を育み、高い倫理観をもつ看護師を育成するために看護倫理教育 (Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ) を位置づける。また、看護管理者、介護福祉士、看護補助者教育にも理念教育を組み込み、看護職へ理念を浸透させる。</p> <p>② 稼働中の教育モデル病棟 (2病棟) の評価を行い、教育モデル病棟構築の継続に必要な選定基準を作成し取組みを継続する。</p> <p>③ 昨年度の実習教育方法の評価を行い、制限下でも充実した実習が可能となるよう取組みを継続する。</p>	<p>① 令和2年度に計画し延期となっていた3回目の理念教育を実施した。3回目の大山神父様からの講義を拝聴したことで、自施設の理念の理解が深まり、看護管理者は自部署のカンファレンスや事例検討会でも理念に立ち返り考え、スタッフへ浸透させる働きかけができていた。また、主任マネジメント教育では、自施設の歴史を知り、地域での役割を理解しコミットメントすることができることを教育目標に挙げ、各領域毎にグループワークを行い発表会を開催した。歴史を知ることによって先人の方の思いを知り、役割を受け継いでいくことの大切さを学ぶことができていた。令和3年度より改訂したキャリアラダーによる継続教育を開始した。</p> <p>ラダーの段階はJNAラダーに準じて4段階から5段階へ変更した。豊かな人間性を育むための教育を多く取り入れるようにしており、年度末に継続教育の評価を行う予定である。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言の発令等で、実習中止、時間短縮などで実習が計画通りに進まず、教育モデル病棟の実習指導の評価ができなかった。教育モデル病棟構築のための選考基準・選考手順・臨床看護教授・准教授・講師等の実習支援の方法については大学と協議して作成できた。教育モデル病棟選定についても選考基準を基に再検討していく。</p> <p>③ 実習中止の際は、指導者が大学へ出向きカンファレンスに参加するなど、各領域の担当教員の方と話し合いを行いながら支援を行った。臨床講師の活用が十分できていなかったことより次年度の課題とした。</p> <p>④ 聖マリア病院・聖マリアヘルスケアセンター所属の5名のCNSについては、令和3年4月より、所属部署をそれぞれの看護部に位置付け活動環境を整えた。現在、看護部を起点とした組織横断的な活動を行うことができています。</p>	80%	<p>前年度までの評価とそれを踏まえた上での事業の継続</p> <p>① 令和3年度理念教育・経統教育の評価、取組みの継続</p> <p>② 教育モデル病棟の評価、選考基準を用いた教育モデル病棟の再検討</p> <p>③ 新カリキュラムに基づく臨床教育の検討</p> <p>④ 実習教育における臨床講師等の積極的活用</p> <p>⑤ CNSの組織横断的活動・教育の継続</p>

中期目標・計画 (令和2年度～令和6年度)	中期行動計画 (令和2年度～令和6年度)	評価指標 (数値目標)	責任委員会等	令和3年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)	令和3年度事業報告 (評価指標がある場合は結果を踏まえて記載)	令和3年度 計画 達成率	令和4年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)
				前年度の収集では不十分だった分野を精査し、引き続き資料の収集を行う。(図書館運営委員会)	1) 建学の精神に基づいた教育及び看護実践の質を向上させるために必要な資料を収集し展示を行った。 回動「ラウダート・シ」に対する理解を深めるため、地球環境に関する資料や国際社会の情勢に関する資料などを収集した。(約1,300冊) 収集した資料は学生図書委員(LA)による展示を行った。(展示冊数:13冊) 学年別にテーマを決め、読んだ本の感想についてPOPを作成した。テーマ:1年生「歴代教皇の回動」、2年生「地球環境」、3年生「感染症」 学生図書委員(LA)が作成したPOP展示については、学生や教職員の興味・関心を高めるため図書館報やホームページで周知した。(図書館運営委員会)	100	1) 建学の精神に基づいた教育及び看護実践の質を向上させるために必要な資料を収集、展示 ①回動「ラウダート・シ」に対する理解を深めるため、地球環境や国際情勢など最新の動向が分かる資料を重点的に収集する ②収集した資料は1階ブースに展示し、展示資料への関心と理解を促す ③展示資料への理解を深めるため、2～3階に所蔵している専門書への案内を行う 2) 新カリキュラムの授業科目と図書分類の関連付けを図る 授業科目と図書分類を関連付けることで、授業科目を理解するために必要な図書を容易に入手できるようにする。(図書館運営委員会)
5	教育目標・将来構想実現に資する教員組織の再構築と適切な人事制度・支援体制による教育研究活動の活性化	i		大学の将来構想を踏まえた教員組織の構築を検討する。	・令和2年度事業報告に記載する教育課程変更の趣旨を踏まえ、教員組織についても改編の検討を行う(教学マネジメント会議)	100	・引きつづき、カリキュラム改正を踏まえた教員配置(領域体制等)の見直しについて、変更の必要性を含め検討する(教学マネジメント会議) ・引き続き、看護職のユニフィケーションの運用方法等を検討する(教学マネジメント会議) ・大学としての新任教員育成、教員間ピアサポートの基本方針を定める(教学マネジメント会議)。
		ii		教育面を中心とした教員活動状況評価を通じ、教員自らが教育研究活動の状況を点検・評価し、質向上を目指すことにより、大学全体の能力向上、活性化を図る。	引き続き、ティーチング・ポートフォリオの教育業績評価への活用方法について検討する。(教学マネジメント会議)	60	・引き続き、ティーチング・ポートフォリオの現状以外の活用方法について検討する。(教学マネジメント会議) ・アンケート形式による教員活動状況評価項目については、より有効に活用できるよう検討を継続し、令和3年度実績分からの活用を目指す(教学マネジメント会議)。
		iii		研究成果の更なる促進に向け、大学・領域内における研究支援を強化	・5月に科研費獲得に向けた全体ガイダンスを実施予定 ・当委員会が窓口となり、個別相談を受入予定 ・各領域でのサポートを呼び掛け、学内の機運を高める(教育の質向上委員会)	・科研費獲得に向けた支援として、学内採択経験者による研修(講演)を2回実施し、さらに個別相談・申請書類確認として13件(委員長対応1件、事務局対応12件)を実施した(教育の質向上委員会)。	100
				学術情報の体系的な収集を行うために、蔵書構築の見直しを行い、引き続き不足している分野の収集を行う。(図書館運営委員会)	100	1) 建学の精神を理解するために必要な図書を収集し展示を行う 回動「ラウダート・シ」に対する理解を深めるため、地球環境や国際情勢など最新の動向が分かる資料を重点的に収集する。 2) 新カリキュラムの授業科目と図書分類の関連付けを図る 授業科目と図書分類を関連付けることで、不足している分野を抽出し必要な資料を収集する。(図書館運営委員会)	
6	教育の質に関する内部質保証の機能性・有効性の向上 (学外者からの意見の積極的活用)	i	自己点検評価・総括委員会 外部評価委員会 教育の質向上委員会 その他、関連委員会	点検評価の実施においては、法的に義務化された機関別認証評価(日本高等教育評価機構)の他、自治体を始めとした地域社会・産業界等の意見、更に任意受審である分野別認証評価(日本看護学教育評価機構)を受審し、積極的に客観的意見を取り入れる。	引き続き、看護学教育評価機構(分野別評価)の各基準項目への対応を行うことで、分野別評価への対応及び看護大学として求められている取組を実施する(教育の質向上委員会)。	90	令和3年度に取り纏めた分野別評における自己点検評価報告書において課題として記載した事項について、その対応を進めていく(教育の質向上委員会)。

学生支援策の充実

中期目標・計画 (令和2年度～令和6年度)		中期行動計画 (令和2年度～令和6年度)		評価指標 (数値目標)	責任委員会	令和3年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)	令和3年度事業報告 (評価指標がある場合は結果を踏まえて記載)	令和3年度 計画 達成率	令和4年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)
1	ひとりひとりの学生の個性と多様性に寄り添う支援	i	チューター教員、科目担当教員、学内学生支援部署、学生支援センター(生活支援部門)が適切に連携し、一人ひとりの学生の個性、背景、心身の状態に応じた支援を行う。	退学率:全体の2%以下 (不本意中途退学者0%)	学生委員会 学生支援センター (生活支援部門) 健康管理センター	学生支援部門会議を学生支援センター会議(学生支援センター・教務部、学生委)と位置づけ、毎月実施し、関りに工夫が必要な学生については、スクールカウンセラーの助言を受ける。(学生委員会、学生支援センター)	学生支援センター会議を定期開催し、学生の情報共有を行った。より丁寧な支援が必要な学生について、アカデミックアドバイザー面談や保護者面談を実施した。各チューター教員、アカデミックアドバイザーは、スクールカウンセラーの助言を受けながら、各学生の支援を行った。学生支援センター生活部門においては、毎月5回のオンラインなんでも相談を実施した。	80	学生委員会において、個々の支援計画について、規定の様式を作成し、アカデミックアドバイザー面談、保護者面談基準を設ける。学生支援部門(学生部、教務部、学生支援センター)会議を定期開催する。学生支援センター生活部門、キャリア部門による定例の「なんでも相談」を継続実施する。
		ii	休学者、留年者、退学予備軍に対し、大学を継続するための学修及び学生生活支援			支援学生(成績下位者、休学者、留年者、健康障害を持った学生)の学業継続の障壁となっている事情を聴取し、継続のため必要な個々の支援計画をたてる。(学生委員会、学生支援センター)	支援学生の学修継続のために、各担当教員により、個々の支援計画を立案、アカデミックアドバイザー、学生課職員と連携し、支援に取り組んだ。	80	支援学生(成績下位者、休学者、留年者、健康障害を持った学生)の学業継続の障壁となっている事情を聴取し、継続のため必要な個々の支援計画をたてる。(学生委員会、学生支援センター)
		iii	学生にとって身近で分かりやすい相談支援体制の構築			MPASSにより、各学生に周知する。(学生委員会、学生支援センター) 支援体制、組織図を作成し、学生へ案内する。(学生委員会、学生支援センター)	年度初めの学生部ガイダンスで、学生部長より、支援体制を学生に各学生に周知した。 また、保護者向け教育懇談会において、学内組織及び支援体制を説明した。 新入生へMPASS、学生便覧を配布した。	80	学生部ガイダンスや教育懇談会、MPASS、学生便覧の配布により、学生支援体制、学生相談体制、相談窓口の案内周知を行う。
2	学生の理解度に応じた学修支援と主体的学修姿勢の醸成	i	リメディアル教育、初年次教育により大学教育への円滑な接続を図り、成績格差の是正を図る。	・1年前期定期学修会への対象者参加率30%以上 ・学年横断型グループワーク(ともべん)への参加率30%以上 ・学修行動調査による学修時間0の学生を0へ(第1回、第2回比較) ・学修行動調査の学修時間上昇率30%以上(第1回、第2回比較) ・1年生成績下位者の得点率上昇率5%以上(入学時テスト、実力テスト比較)	学生支援センター (学修支援部門) チューター	・1年生については、入学時の課題およびテストにより支援対象者を選定し、ピア・サポートによる支援を1年前期から実施する。 ・人体の構造と機能の補講を学修支援部門の教員が実施し、試験合格者増を目標とする。	1年生への学修支援として遠隔による少人数のグループ学修支援を実施した。 人体の構造と機能および臨床病態学の補講を教員に協力を得、学修支援部門の教員が実施した。本試験合格者増には至らなかった。(学修支援部門)	60	・学年横断型によるピア・サポート活動の実施 ・人体の構造と機能については、補助資料を活用した主体的な学修への支援を実施(学修支援部門)
		ii	学修支援ピア・サポーターを中心とした学年横断型グループワーク学修会を確立し、学生の主体的・能動的学修スタイルの形成、学修コミュニティの形成を醸成し、受講学生の基礎学力の向上を図るとともに、指導学生の理解度向上並びに指導を通じた成長を促す。			・コロナ禍での講義形態、時間割等において、学年横断型での実施に困難があったため、まずは同学年でのピアサポート活動とし、コミュニティづくり、学修方法や習慣の確立を目標とする。	同学年同士によるグループ学修支援において、1年生の遠隔授業に伴う学修への不安は改善が図れた。(学修支援部門)	80	・学年横断型によるピア・サポート活動の実施 ・成績低迷者への学修方法や学習習慣の確立を目標としたピア・サポート活動を実施(学修支援部門)
		iii	学生行動調査を分析し、結果を踏まえた支援体制を検討・実施する。			学修行動調査については継続、結果の経年比較を行い、それを踏まえた支援を検討する。	コロナ禍において学修形態の変更があり、学修行動調査は実施していない。 IR・SD推進室により実施された学修行動調査結果の分析を行った。(学修支援部門)	100	学修行動調査の結果に基づき、主体的な学習への支援を実施(学修支援部門)
		iv	国家試験合格を見据え、特に学修理解が困難な学生や留年生に対しては低学年からの学修支援体制を充実させ、また4年進級後の支援体制づくりを行う。			国家試験合格率(100%達成と継続)	成績低迷者への支援について、各学年で目標を立て、それに合わせた支援を実施する。 ・4年生:看護師国家試験新卒合格率100%を目標とし、成績低迷者への支援を早期に実施する。 ・3年生:国試対策の学修時間がもて、3年3月模擬試験の平均点が前年度より高いことを目標とする。また国家試験の概要を知り、国試対策を学生が自主的に行うことができるよう支援する。 ・2年生:前期・後期の臨床病態学の試験合格者が前年度と比較し増えることを目標とし、臨床病態学の補講を実施する ・1年生:人体の構造と機能の試験合格者が前年度と比較し増えることを目標とし、授業内容に応じた補講を実施する。	成績低迷者の学生に対し、学修支援部門の教員がチューター教員と協働で個別支援を行った 遠隔による学修支援方法の再検討が必要である ・4年生:看護師国家試験新卒合格率98.1% ・3年生:年度末模擬試験の平均点は前年度と同様であり、対策に個人差がみられた ・2年生:臨床病態学の試験合格率は本試験は変化なし ・1年生:人体の構造と機能の試験合格率は前年度と変化なし(学修支援部門)	70
		i	低学年よりキャリアガイダンス実施し、キャリア形成の動機付けを行う。			オンラインによる、キャリア講座や進路ガイダンスによりキャリア形成の動機づけを行う。(学生委員会、学生支援センター)	オンラインによる進路ガイダンス、キャリア講座を4月、7月、12月、3月に実施した。低学年向けには、「ライブプランセミナー(1年次7月)」を実施した。 また、オンラインによる聖マリア病院説明会(3年次9月)及び看護協会長講話(4年次3月)を実施した。 保健師コース選択、助産師課程進学へ向けての進路ガイダンスを継続実施した。	80	キャリア支援講座について、就職活動早期化に伴い、更に時期を想起に実施することを検討する。また看護協会長講話、病院説明会についても早期実施を検討する。 保健師コース選択、助産師課程進学へ向けての進路ガイダンスを継続実施する。

中期目標・計画 (令和2年度～令和6年度)		中期行動計画 (令和2年度～令和6年度)		評価指標 (数値目標)	責任委員会	令和3年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)	令和3年度事業報告 (評価指標がある場合は結果を踏まえて記載)	令和3年度 計画 達成率	令和4年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)
3	学生の適正や能力、可能性を活かし、よりよいキャリア選択を可能とする支援の充実	ii	個人の能力や大学での学修を実践に活かすことが出来るよう、一人一人に応じた適切なキャリア選択のための支援を行う。	就職・進学希望者の就職・進学率100% 福岡県内病院への就職率65%、聖マリア病院への就職率30%	学生委員会 学生支援センター (キャリア支援部門)	チューター教員よりリモートを活用した面談を行い、進路に関する方向性を聴取し、個々の進路希望に応じた支援を行う。(学生委員会、学生支援センター)	チューター(ゼミ)教員による個別面談及び個々の進路に応じた助言や支援(履歴書添削や面接練習)を行った。キャリア支援部門職員により、進路個別相談、履歴書添削、面接練習などの支援を実施した。またオンライン相談会を実施した。	80	チューター(ゼミ)教員、学生支援センターキャリア支援部門による個別支援を継続する。ハローワークや福岡県若者ごとサポートセンターとも連携し、より細やかな支援を検討する。
		iii	地域社会の健康に寄与できる看護者の輩出を目指し、聖マリア病院との連携による就職支援を行う。			「召命のつどい」への参加を通し、与えられた自分の命に感謝することと、これから「いのちに奉仕する」ことを望む1年生がお互いに神様の守りと導きを祈る時間となるよう開催についての検討を継続する。学院祭では、行事を通して、体験的な学びを得る場となるよう、企画・運営内容を検討する。	「召命のつどい」をオンラインで開催した。後期初日である10月1日に看護学部1年生110名全員が揃い、自分がいただいている命の恵みに感謝するとともに、他者のために自分を生かす「カトリックの愛の精神」のもと看護の道を心新たに歩むための時間を持つことができた。学院祭はオンラインでの開催となったが、交流を中心とした企画を工夫し、学生通しの交流の場となった。	80	学校行事(召命のつどいや学院祭等)を通し、地域とのつながりを持ち、看護専門職を目指す者として、体験的学びを得る機会とする。「召命のつどい」は、感染状況に留意しながら、対面での実施を検討する。学院祭についても、対面での開催方法を工夫し、対面での交流機会の確保を検討する。
		iv	学修・研究意欲の高い学生に対し、大学院授業聴講機会の提供など、学びの意識を向上させる場を設け、進学も視野に入れたキャリア形成を可能とする。			大学院研究科長による進路ガイダンスを開催し、大学院へ進学した場合の具体的なキャリア像を学生へ示す。	大学院研究科長からの進路ガイダンスを各学年に実施し、大学院進学の際のキャリア像や奨学金制度等について丁寧な説明を行った。	80	大学院研究科長による進路ガイダンスを継続開催し、多様なキャリア選択の可能性を知る機会とする。
4	真に支援を必要とする学生への適切な支援	i	学生の正しい自己理解と人間的成長を促すための支援		学生委員会 学生支援センター 健康管理センター	学生支援センター会議の中で、丁寧な関わりを要する学生情報を共有し、適切な時期に継続した面談を実施する。また、保護者との連携を密にし、家庭内の理解と協力を依頼しながら、学生の状況に応じた支援を行う。	学生支援センター各部門会議や学生委員会の中で、学生の情報を適宜共有し、実習時の教育的配慮や保護者との面談等、学生個々の状況に応じた支援を実施した。	80	学修の苦手がみられる学生、丁寧な関わりが必要な学生との面談のなかで、自己理解を促し、必要に応じ、配慮申請を検討していく。
		ii	障害学生支援体制の構築を図るとともに、教職員の更なる理解を促すための取り組みを行う。			新たに立ち上がったインクルーシブ教育支援部門により、支援規程及び申請様式並びに支援のフローチャートなどの検討を進める(学生委員会、学生支援センター)	インクルーシブ教育支援部門会議を定期開催し、支援計画の検討と実施内容の評価を行った。インクルーシブ教育支援部門により、支援のフローチャートを策定。規程については、次年度に策定予定。教職員に支援申請及び支援内容、フローチャートの周知を図った。	70	インクルーシブ教育支援部門会議を定期開催し、支援学生毎の支援計画の検討と実施内容の評価を行う。規定の策定、関係様式の整備、検討を進める。教職員の発達障害学生の理解を促すための研修会開催を検討する。
		iii	意欲と能力がありながら、経済的理由により修学を断念することがないよう、給付型奨学金等の正確な情報提供と適切な運用を行う。			学生全体への積極的な情報提供を行い、家計に不安のある学生に対し、個別の状況に応じた相談対応を継続する。	給付型及び貸与型奨学金の学生への積極的で細やかな情報提供を行い、家計状況に応じ、奨学金の種類や具体的な内容などの情報を伝え、個別の家計状況への聞き取りを丁寧に行い、申請に向けての支援を行った。	80	給付型及び貸与型奨学金の学生への積極的で細やかな情報提供、申請に向けての支援を継続する。
5	学生生活・学修環境の整備・充実	i	学生生活満足度調査の結果等を踏まえ、学生が充実した学生生活を送り、また主体的学修を可能とする学内環境を整備する。	学生満足度調査	学生委員会 教育の質向上委員会 図書館運営委員会	-	-	-	-
						自宅学修において図書館サービスを活用できるようオンラインサービスを拡充する。(図書館運営委員会)	1) Webclassを活用した自己学修支援を行った。 自己学修に必要なガイダンス資料(利用案内、蔵書検索、文献検索等)をWebclassから閲覧、ダウンロード可能とし、利用ガイダンスを実施した。(アクセス数:224) 2) 自己学修や研究に必要な文献収集及び卒論作成の支援を行った。 ①電子資料へのアクセス環境を整備し、学外からの文献収集を可能にした。(文献検索データベースへのアクセス総数:29,395) ②自宅における自己学修や研究を支援するため、図書及び文献複写物の郵送サービスを実施した。(図書:9冊、文献:110件) ③過去の卒業研究論文タイトル検索データベースに令和2年度のデータを追加登録し、WebclassやTeamsよりアクセスできるよう整備した。 3) 自己学修を支援するためにオンラインガイダンスを実施した。 ①1年生に対し館内利用ガイダンス、文献検索ガイダンスを実施した ②海外文献検索データベース「CINAHL」のガイダンスを実施した。 ③EBSCOhost公開ガイダンス(Youtube)を周知し、ガイダンス資料を提供した。 (図書館運営委員会)	100	1) オンラインサポートの拡充 ①Webclassの活用:各種ガイダンス資料の更新、活用法についてオンラインサポートを実施 ②講義と連携した図書館サービスオンラインガイダンスを実施 ③出版社と連携したオンライン講習会を実施 ④卒業研究支援:卒業研究論文タイトル検索データベースの更新 2) カリキュラムに即した検索ガイダンスを実施 ①看1:基礎的検索スキルを身につける ②看2:課題に応じた検索スキルを身につける ③看3:看護研究における基本的文献検索スキルを身につける ④看4・専攻科:研究テーマに沿った応用的文献検索スキルを身につける ⑤大学院:修士論文作成に必要な文献検索スキルを身につける 3) 学生図書委員(LA)による図書館利用促進 学生図書委員が選書、POP作成、展示を行い、図書館報やホームページで周知する。 図書に対する興味・関心を高めることで、図書館の利用促進、学習意欲の増進を図る。 (図書館運営委員会)

入試改革と戦略的學生募集・広報活動の推進

中期目標・計画 (令和2年度～令和6年度)		中期行動計画 (令和2年度～令和6年度)		評価指標 (数値目標)	責任委員会等	令和3年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)	令和3年度事業報告 (評価指標がある場合は結果を踏まえて記載)	令和3年度 計画 達成率	令和4年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)
1	戦略的學生募集活動の立案による安定的受験者数の確保	i	重点的ターゲットとなる地域、学力層への戦略的アプローチ(高校訪問、出前講座、SNS等)の実施と取組実績評価に基づく改善	受験者数 (学部330名、専攻科20名、大学院12名)	学生募集・広報戦略委員会 入試委員会	広報費削減のなかで、認知度向上と囲い込みの両面を意識しながら、より効果的な広報媒体を取捨選択し実施する。コロナ禍のなかで、高校訪問や出前講義など、実施方法を工夫し全学的に実施する。目標数値は、看護系大学が1校新設されることもあり、看護学部は現状維持(272名)、専攻科20名、大学院は12名(定員充足)を目標とする。(学生募集・広報戦略委員会)	コロナ禍が収まりを見せない中、引き続き、進学情報誌やネットメディア、SNS、学習管理アプリ等を中心とした広報を実施した。高校内ガイダンスは、地元校やカトリック校を中心に24回(20校)参加したが、費用対効果や広報費見直しの観点から会場型ガイダンスの参加は見送った。高校訪問については、12月に訪問校を絞って実施し、主に一般選抜での変更点や特待奨学金制度の改正について周知を行った。志願者数目標は専攻科は達成したが、学部、大学院では目標を大きく下回った。	20	高校訪問、校内ガイダンスは対象を重点校に限定して実施。出前講座等のオンラインでの実施も広く高校に周知する。広告はDX化を念頭に、広報予算見直しの中で効果的な媒体を取捨選択し実施する。SNSも引き続き積極的に運用する。大川市に新たに看護学部が新設されることも踏まえ、随時最善の方法を模索しながら実施する。志願者目標は、看護学部240名、専攻科20名、大学院12名とし、それぞれの定員充足を目指すものとする。(学生募集・広報戦略委員会、入試委員会)
		ii	受験につながる魅力あるオープンキャンパスの企画・実施と取組実績評価に基づく改善	オープンキャンパス参加者数 (参加学生350名以上)		新型コロナウイルス感染症の罹患状況をみながら、極力実地・オンラインを併用し手の実施を模索する。実地で開催可能な場合も人数制限を設ける必要があると思われるため、目標値は実地の場合240名(70名×3回+30名×1回)、オンラインの場合120名とする。(学生募集・広報戦略委員会)	コロナ禍の影響により、昨年度から引き続きWeb OCを実施。参加者(7～9月)は144名となり、設定した目標値を上回った。また、3月は2年ぶりに来校型を実施することができた。なお、前年度はほぼ3年生のみの参加であったが、本年度は1、2年生の参加も増加し、次年度以降の受験生に認知を進めることができたと考える。	80	Web OCコンテンツの充実。特に参加者が将来の自分を具体的に描くことができ、本学のファンになってもらうためのプログラムの検討並びに実施を目指す。また、多くの参加者を呼び込むための広報を検討、実施する。特に若手の教員、職員を積極的に登用し、可能であれば学生スタッフの充実にも努める。目標値は、来校開催の場合240名、オンラインの場合は140名とする。(学生募集・広報戦略委員会)
		iii	奨学金制度、Web出願等、制度面からの受験者確保方策の検討と実施。		入試委員会 学生募集・広報戦略委員会	Web出願の実施については令和5年度入試から導入可能か、費用や他大学の状況などを勘案し、判断する。奨学金については、従前の特待奨学金を改正した新奨学金を実施する。(入試委員会)	運営会議の方針を受け、特待奨学金制度の改正を行い、事前申請制並びに新入生向け奨学金の適用人数枠を拡大した。本年度は4名の適用を予定している。なお、在学生向けの支給額も変更し、半期授業料、もしくはその半額へ増額した。Web出願システムについては、次年度導入を目標に準備中である。	70	奨学金制度について検証を行い必要に応じて改善するとともに、Web出願システムを導入し、受験生のニーズに応えられるようにする。(学生募集・広報戦略委員会、入試委員会)
		iv	大学院においては、内部進学者を増やすための取組強化。	大学院内部進学者数 (3名以上)	学生募集・広報戦略委員会 入試委員会 学生委員会	在学生ガイダンスやSNSを用いた情報発信、教職員の個別勧誘のほか、Web相談会の年中行事化や現役大学生の進学優遇措置の周知などで定員充足を目標とする(内、内部進学者は2名)。(学生募集・広報戦略委員会)	内部進学支援制度が設けられたことに伴い、国試フェアやホームルーム、広報誌等で同制度の周知を行った。昨年度に引き続き、Webでの大学院説明会を実施し、2回で計2名の参加者を得たが、入学者は4名に止まり、目標の定員確保や内部進学者2名の達成には至っていない。	20	在学生へのガイダンス実施に加え、卒業後2～3年の卒業生へのアプローチに向けて具体的な検討・実施するとともにその他の広報手段や内容を検討する。同時にパンフレットやホームページ記載内容の改善を図る。目標は定員充足とする。(学生募集・広報戦略委員会、入試委員会)
2	本学アドミッション・ポリシーに合致した学生の安定確保を目指した入試制度改革	i	入試区分別の入試倍率・入学後成績等の分析を通じ、入試区分や選抜方法の妥当性、並びにアドミッション・ポリシーとの整合性の検証。	受験者数 (学部330名、専攻科20名、大学院12名) 入試区分別入学後状況 (成績・学籍異動等)	入試委員会 IR・SD推進室	3年間のデータのみでは確固たる結果と言えず、より広汎で詳細な分析を必要とするため、継続的に分析を行い、より信頼性の高いデータの抽出(入試区分別、高校別等)を目指す。(入試委員会)	昨年度IR・SD推進室において、過去3年間の卒業生について、入学試験及びGPAを指標として現状分析を実施し、本年度はそれに基づき入試制度改革を実施。なお、本年度は横断的な分析は実施できていない。	50	本年度の入試制度改革の効果について、IR・SD推進室と連携の下、検証を実施する。また、卒業生の国試結果や成績(GPA等)と関連づけた入試区分の適正性等についても継続的に検証を実施し、今後の高大接続の改善に繋げてゆく。(入試委員会、IR・SD推進室)
		ii	検証結果に基づく、新たな入試区分創設や区分別定員・選抜方法、並びにアドミッション・ポリシー自体の見直し等の実施。	受験者数 (学部330名、専攻科20名、大学院12名) 入試区分別入学後状況 (成績・学籍異動等)	入試委員会 IR・SD推進室	よりアドミッション・ポリシーに合致した学生を獲得できるよう、引き続き、分析結果を基に入試試験内容の見直しを継続して行う。(入試委員会)	次年度より新カリキュラムが導入されることに伴い、アドミッション・ポリシーを改定した。これと昨年度実施した上記の検証結果を元に入試制度改革を実施した。全体の志願者は減少しているものの、入試方法の変更等が要因となつてか一般選抜の歩留まり率が4割近くであり、比較的入学志望度が高い層が受験しているのではないかと推察できる。但し、定員割れとなつたことで、志願者増につながる方策も同時に検討・実施する必要がある。	80	上記の検証に基づき、入学試験制度や選抜方法・アドミッション・ポリシーの見直し等を継続実施し入学者の数と質の確保に努める。(入試委員会、IR・SD推進室)

社会連携(地域貢献、国際交流)

中期目標・計画 (令和2年度～令和6年度)	中期行動計画 (令和2年度～令和6年度)	評価指標 (数値目標)	責任委員会等	令和3年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)	令和3年度事業報告 (評価指標がある場合は結果を踏まえて記載)	令和3年度 計画 達成率	令和4年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)
<p>1</p> <p>学長方針下、本学の主要事業の一環である”地域ファースト”、”国際交流”の大学内への浸透と全学的関わりを前提とした事業化を図る</p>	<p>i</p> <p>総括的、機動的に企画、執行するための組織化</p>	<p>委員会再編(R2～)年間活動実績</p>		<p>コロナ禍の長期を前提とした中期計画、年間計画の点検、見直し。所轄委員会による中期・年間計画の進捗確認と活動内容への反映。教職員・学生参画を促す仕組みづくり(オンライン活用の恒常化)。</p>	<p>・中期計画・年間計画の点検・進捗確認という点について、月例の会議にて進捗確認を定例議題化した。月次単位で活動実績を文書化し、達成状況の可視化を図った。</p> <p>・「地域ファースト」の大学方針下、教職員の自主的・積極的な参画を促す仕組みとして地域貢献に関する項目を人事評価指標に掲げ(事務職員は本年度から実施)動機付けを図った</p> <p>・以下の各種取組みに際し、学生の参加を呼び掛け、教職員とともに活動を実施。</p> <p>【学生によるSNSを活用した久留米の魅力発信プロジェクト】 学生が主体となり、久留米市・聖マリア病院・地域住民へ取材。取材記事8本を市のプロモーションサイトへ掲載。</p> <p>【地域住民の健康支援(ほっとステーションマリア)および公開講座】 ほっとステーション全3回、公開講座全6回実施、延べ33名の学生が参加した。</p> <p>【聖マリア病院入院患者へのクリスマスカード作成・贈呈】 12月13日～23日に実施。学生・教職員協働で1,070枚を作成。</p> <p>【クリーンパートナー活動】 計6回実施、延べ6名の学生が参加した。</p> <p>【かんだま祭】 ”with コロナ時代の看護学生”をテーマに3月5日開催。各大学の学生生活等の紹介、コロナ禍の入職に関する卒業生インタビュー動画、フリートーク企画が実施された。本学からは、1～3年生6名が企画・運営に参加。</p> <p>・教職員個々人の活動内容の可視化について、地域連携部門会議構成員を対象に活動状況の実態調査を行い、一覧表に取り纏め、会議内で共有を図った</p>	<p>100%</p> <p>中長期計画・年間計画の点検、進捗確認という点において、毎月会議での報告・協議を実施した点、教職員・学生参画を促す仕組みづくりとしてオンラインを活用した公開講座の開催およびSNSを活用した学生主体のプロジェクト等を実施した点、これらを踏まえ、計画を十分達成できたと評価した</p>	<p>○中期計画に基づく年間計画の進捗点検を定例会議でルーチン化</p> <p>○各種活動に教職員・学生が参加しやすい工夫を凝らし、全学的な地域貢献活動推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっとステーションマリア(学生への参画呼び掛け) ・公開講座(前年度同様、オンラインと対面のハイブリット型で参加機会の拡充を図る) ・クリーンパートナー活動(学生の登校日に合わせて実施) ・クリスマスカード作成(学生主体で実施) ・かんだま祭(学生主体で実施) ・新規事業(学生への参画呼び掛け)
	<p>ii</p> <p>教職員及び学生の自主的、積極的な参画を促す取組み</p>	<p>人事考課項目化 学生組織体活動実績</p>					
	<p>iii</p> <p>教職員個々人における活動内容の可視化、共有化</p>	<p>一覧表の取り纏め 【継続案件】</p>					
	<p>i</p>			<p>国際交流部門としては、姉妹校とのヴァーチャル連携の強化を図る。</p> <p>・第1回Virtual Mobility Tour(学生2名参加・タイ、フィリピン、インドネシア5校による異文化理解プログラム)</p> <p>・韓国カトリック看護大学、仁川カトリック看護大学とオンライン交流プログラム検討を行ったが、内容について合意形成には至らなかった。</p> <p>・フィールドスタディをオンラインで実施</p> <p>・ASEACCUでパンデミック禍における持続可能な発展のためのウェビナーとワークショップが開催され、教職員2名参加</p> <p>・JICA青年母子保健研修(対象国:アフリカ・ハイチ)をオンライン形式で実施</p>	<p>姉妹校とのオンライン交流実践は次の通り。</p> <p>・第1回Virtual Mobility Tour(学生2名参加・タイ、フィリピン、インドネシア5校による異文化理解プログラム)</p> <p>・韓国カトリック看護大学、仁川カトリック看護大学とオンライン交流プログラム検討を行ったが、内容について合意形成には至らなかった。</p> <p>・フィールドスタディをオンラインで実施</p> <p>・ASEACCUでパンデミック禍における持続可能な発展のためのウェビナーとワークショップが開催され、教職員2名参加</p> <p>・JICA青年母子保健研修(対象国:アフリカ・ハイチ)をオンライン形式で実施</p>	<p>80</p>	<p>国際交流部門としては、昨年に引き続き、姉妹校とのヴァーチャル連携の強化を図る(第2回Virtual Mobility Tour、韓国姉妹校とのプログラム検討協議など)。在学生を対象に、学生が多様性を理解し、尊重できるようDeep Culture Workshopや様々な地域の人の暮らしと健康課題を学ぶ機会を提供する。JICA青年研修への応募・採択を目指す。</p> <p>本学とアジア諸国の姉妹校連携からの学びを地域に還元する取り組み、例えば、地域の中学生や高校生に対しアジアで共に暮らす人々の生活や健康について紹介する、オンライン交流からの学びを地域在留の外国人の方々へのサービスに活用する、等(国際交流部門)。</p>
	<p>新規事業の展開と継続事業の発展性(事業の整理・統合)</p>	<p>事業実績と関係者からの評価</p>		<p>事業項目別の昨年度コロナ対応に関する評価に基づき、拡大的ではなく取捨選択的に事業の集約化、効率化に取り組む。</p>	<p>・「地域ファースト」の大学方針下、本年度の主要社会貢献事業として、7月～8月にかけて大学拠点型の新型コロナワクチン職域接種を実施、教職員が一丸となり運営を行い、建学の精神である「カトリックの愛の精神」を具現化した事業であった。本学学生・教職員及びその家族、近隣大学等の学生・地域住民・地場企業、さらに地域在住の外国人を対象に1,200名の接種を実施。本職域接種は、聖マリア病院・地域の医療機関・久留米カトリック協会等、日頃から関係性のある各機関と協働し遂行され、各機関との連携堅持・強化を図る機会となった</p> <p>・その他、新規活動として、コロナ禍、聖マリア病院でのクリスマス行事が中止となったことを踏まえ、入院患者へ手書きのクリスマスカード1,070枚を送り、共にクリスマスを祝う活動を実施。贈呈先である聖マリア病院・ヘルスケアセンター・メゾンマリアより感謝の言葉が多数寄せられ、意義ある活動であったと評する。今後、クリスマス行事再開後も、毎年継続する方向で進めることを決定。その際、学生主体の活動となるようアプローチをしていく。</p>	<p>100%</p> <p>コロナ禍での新規事業の展開として新型コロナワクチン職域接種の実施および手作りのクリスマスカード作成・配布を実施した点において計画を十分達成できたと評価した</p>	<p>○自治体・地元産業界等と連携した活動を実施(例:地域住民向けの講座)</p>

中期目標・計画 (令和2年度～令和6年度)	中期行動計画 (令和2年度～令和6年度)	評価指標 (数値目標)	責任委員会等	令和3年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)	令和3年度事業報告 (評価指標がある場合は結果を踏まえて記載)	令和3年度 計画 達成率	令和4年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)
3 大学の資源(人材、知財、施設・設備)を広く還元し、多様な社会ニーズへの柔軟な対応に資する	ii 学内施設、図書館等の積極的開放による地域住民への活動支援	各種団体・機関との共催等	<p>・本プログラムは社会人を対象としており、対面・オンライン・オンデマンドを併用する「ハイフレックス型」を試行的に実施することで、履修者が自在に履修方法を選択でき、今以上に教育の機会を保障できる環境を構築する(教育の質向上委員会)</p> <p>・アドバンスコースについては、新たな履修証明プログラムの設定ではなく、科目等履修生としての検討を継続する(教育の質向上委員会)。</p> <p>図書館の地域開放が可能な状況になれば、学生図書委員(LA)による地域協働活動を実施する。(図書館運営委員会)</p>	<p>・社会人向け履修証明プログラム(正規課程として受講する大学院生を含む)において、ハイフレックス型授業を実施した。結果、出席率は向上し、さらに本システムを活用した履修生全員から高評価を得た(教育の質向上委員会)。</p> <p>・履修証明プログラム履修生で単位取得を希望する方に対しては科目等履修生としての単位認定が可能であることを通知した(教育の質向上委員会)。</p> <p>1)「動く図書館」活動を企画した。 コロナ禍により図書館の地域開放が難しい状況にあるため、聖マリア病院と協働し、入院患者を対象とした移動図書館サービス「動く図書館」活動を企画した。産科病棟と調整を行い実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により延期となった。</p> <p>2)図書館が行うSDGs(持続可能な開発目標)の取組みを実施した。 ①目標1「貧困」に対する取組み:コロナ禍により経済状況が悪化した学生を支援するため、教科書購入費用の補助を目的とした教科書リユースを実施した。(補助額:397,320円) ②目標4「教育」に対する取組み:教科書リユースや古本販売等で得た収益金をフィリピンの子どもたちへの就学支援として寄付した。(寄付金:31,500円) ③目標12「持続可能な消費と生産」に対する取組み:学生や教職員から古本を回収し、教科書リユース、古本市を実施した。(販売冊数:1,135冊) (図書館運営委員会)</p>	100	<p>・引き続き、社会人向け履修証明プログラム(大学院正規科目)においてハイフレックス型授業を継続する(教育の質向上委員会)。</p> <p>・法改正により、履修証明プログラム全体に対しての単位認定が可能となる。全ての科目を大学院正規科目で構成し科目等履修生度を活用している本学において、本制度の活用可能性について確認・必要に応じた検討を行う(教育の質向上委員会)。</p> <p>1)「動く図書館」活動の実施 聖マリア病院と協働し、入院患者を対象とした移動図書館サービス「動く図書館」活動を実施する。</p> <p>2)SDGs(持続可能な開発目標)の取組み ①目標1「貧困」に対する取組み:コロナ禍により経済状況が悪化した学生を支援するため、教科書購入費用の補助を目的とした教科書リユースを実施する。 ②目標4「教育」に対する取組み:教科書リユース及び古本販売等で得た収益金をフィリピンの子どもたちへの就学支援として寄付する。 ③目標12「持続可能な消費と生産」に対する取組み:学生や教職員から古本を収集し、教科書リユース、古本市を実施。資源を再利用することで環境保護への関心を高める。 (図書館運営委員会)</p>	
	iii ナースペースクリニック活動の展開 (cf.:2-iii)		<p>地域の要請に応じて、教職員・学生が出向いていくスタイルへの転換。コロナ長期の状況下、アウトリーチ型の地域貢献活動として、拠点型(学内外の是非を含む)、若しくは派遣型(各コミュニティへの出張型)の検証的実践活動。評価指標の見直し。</p>	<p>4月:令和3年度の第1回目の活動として、4月19日に開催されたいきいきサロンにおいて、「新型コロナウイルスに関する学習会」を開催。日高教授、小浜、綱脇、聖マリアヘルスケアセンター橋本、佐藤5名出席 内容:正しいマスクのつけ方、手洗いの方法に関する講義・手洗いチェッカーによる実演。参加者24名、ボランティア15名、聖マリア学院大学関係者5名(計44名)。</p> <p>5月と6月は感染拡大につき中止。</p> <p>7月:7月17日に開催されたいきいきサロンにおいて、「脳卒中を予防するための10か条に関する学習会」を開催。日高教授、小浜、綱脇、聖マリアヘルスケアセンター佐藤の合計4名出席。内容:脳卒中の病態と予防のための10か条についての講義。参加者21名、ボランティア10名、聖マリア学院大学関係者4名(計35名)。感染症の状況を踏まえ8月以降は活動中止。</p>	70% (回数)の充実 △)	<p>派遣型の活動として、地域の公民館におけるサロンでの活動を実施。令和3年度においては、感染拡大が繰り返される状況もあり、活動回数の充実を図ることができなかった点において、計画を概ね達成と評価する</p> <p>○津福東公民館での「いきいきサロン」の活動継続 ○新規活動場所模索</p>	
	i Web媒体を中心とした多角的視点からの情報発信	発信者・数・内容の多層化、アクセス数	<p>・SNSの活用については、写真等の肖像権(学生への許諾等)を取得し、広報が速やかに行えるように学内の規定を整備する。</p> <p>・広報活動担当者の退職に伴い、広報活動のスピードダウンが懸念される。記事作成から閲覧、公表までのシステムづくり、担当者チームを設定するなどの早急な対応が必要である。</p> <p>・ホームページの写真のリニューアル、ホームページ内容の更新頻度についての規定を作成する。</p> <p>・オンラインで開催されるイベント、大学内で開催されているイベントに関する周知力が弱いことが課題であると思われ、情報を発信していく頻度、方法について本年度検討を行う。</p>	<p>・Withコロナ時代に適応した運営として、公開講座の実施方法を対面とオンラインのハイブリットとし、自宅や勤務先、遠方など多様な環境から参加可能とした</p> <p>・本学のホームページ・Twitter他各種SNSを活用し、公開講座の広報や各種地域貢献活動の実施報告などを実施。公開講座前のクリーンパートナー活動を定例化し、実施報告と公開講座の告知を連動させるなど、今までにない形での発信を行った。</p> <p>・各種実践は、速やかにホームページ等へ掲出し、迅速な情報発信に努めた</p> <p>・「学生によるSNSを活用した久留米の魅力発信プロジェクト」では学生が市へ取材した様子が市の公式YouTubeへアップされ、自治体との連携活動について発信</p>	100%	<p>各種活動の広報・実践報告について、本学ホームページをはじめとし、各種SNSを活用した積極的な発信、を行った。</p> <p>各活動を複合的に広報するなど、広報の方法も工夫し情報発信を実施したことから十分に達成したと評価する。</p> <p>○本学ホームページをはじめ、各種SNSを活用した地域貢献活動の積極的な広報・情報発信</p>	

中期目標・計画 (令和2年度～令和6年度)		中期行動計画 (令和2年度～令和6年度)		評価指標 (数値目標)	責任委員会等	令和3年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)	令和3年度事業報告 (評価指標がある場合は結果を踏まえて記載)	令和3年度 計画 達成率	令和4年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)
		ii		新規企画の立案・執行		在留外国人の相談窓口となっている久留米市協働推進部の方々と連携し、感染予防対策を講じながら、個別相談に応じるなど、看護専門職者の知識・技術をもって地域の人々にニーズに対応する(国際交流部門)。	当該部署(久留米市協働推進部)との連携は実施できなかったが、個別の在留外国人支援は継続して行った。 特に、保健医療だけではなく、今後の課題となるであろう教育の問題に関する相談などを開始した。	75	在留外国人の課題としては、保健医療に加え、子供たちの教育問題が予測される。 久留米市協働推進部との連携を再開し、教職員や学生たちとの交流が可能であるか、協議・検討を開始する。 個別案件は、継続して支援を行う。
			地域社会における新たな関心層(小中学校、自治会等)へのアプローチ				<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度青少年のためのサイエンスモールinくるめ2021へ参画 ・取組メンバー:助産学専攻科9期生 10名、地域連携センター委員1名他 ・取組期間:令和3年9月～12月 ・「私たちがどこから来たの～大切ないのち編～」 「生理(月経)ってなあに～みんなで学ぼう編」の2本の動画を作成、動画視聴者は小学生20名、中学生5名、高校生2名、その他18名の計45名 	100% 左記のとおり、企画へ参画したことから計画を十分に達成できたと評価する	○令和4年度高等教育コンソーシアム久留米 小中高連携部会「青少年のためのサイエンスモール」企画・参加
5	久留米市内高等教育機関との連携により、地域における総合的な知の拠点づくりを進め、「知」を地域社会に還元するとともに、自治体、産業界と協働し、地域の教育、文化及び産業の発展に貢献する。	i	コンソーシアム久留米及び久留米広域高等教育活性化産学官連携プラットフォームへの参画による、教育連携、地域連携、次代の地域を担う人材育成、連携基盤の整備、運営・人材の強化を図る取組を実施			<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、コンソーシアム久留米(プラットフォームを含む)の各部会へ参画し、地域貢献、大学間及び産学官連携等への積極的参画を行う。 ・令和3年度も各取組における新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されることから、コロナ禍における連携・地域貢献のあり方を含め、他大学等と協議する(地域・国際連携センター)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本学を拠点として実施した新型コロナウイルス職域接種においては、若年層への早期接種・啓発を趣旨として、コンソーシアム久留米加盟校を含む近隣の大学等へも呼び掛け、接種機会を提供した。接種に際しては、各大学等の教職員と連携し円滑に進むよう協働した。 ・SNSを活用した久留米の魅力発信について以下の8つのテーマで取材進行中 <ul style="list-style-type: none"> 1.地域に開かれた聖マリア病院-患者・家族サポーターを訪れました! 2.患者様、ご家族を温かく支え見守る雪の聖母聖堂 3.久留米発いきいき!無農薬野菜に取り組む方への取材 4.周りのみんなを元気にする津福東のいきいきサロン!ボランティアリーダー堀田さん 5.美しい久留米の街並みを守る!環境の取り組み 6.聖マリア学院大学のオンラインフィールドスタディー:オンラインでラオスを訪問しました(その1 ラオス紹介編) 7.聖マリア学院大学のオンラインフィールドスタディー:オンラインでラオスを訪問しました(その2 私たちが学んだラオス編) 8.聖マリア学院大学のオンラインフィールドスタディー:オンラインでラオスを訪問しました(その3 食文化である昆虫食) ・「かんたま祭」は「with コロナ時代の看護学生」をテーマに3月5日開催。各大学の学生生活等の紹介、コロナ禍の入職に関する卒業生インタビュー動画、フリートーク企画が実施された。本学からは、1～3年生6名が企画・運営に参加。 	50% (他大学との協議×) コンソーシアム久留米の各部会への参画を通し、多様な地域貢献活動を実施できたが、地域貢献のあり方について他大学と十分な協議ができたとは言えず、概ね達成と評価する	○コンソーシアム久留米へ参画し、各種活動を継続 ○地方自治体・地元産業界と連携した新規事業の展開(地域住民向けの講座等)

経営基盤・組織の強化

中期目標・計画 (令和2年度～令和6年度)		中期行動計画 (令和2年度～令和6年度)	評価指標 (数値目標)	責任委員会等	令和3年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)	令和3年度事業報告 (評価指標がある場合は結果を踏まえて記載)	令和3年度 計画 達成率	令和4年度事業計画 (評価指標がある場合は、目標値等も記載)	
1	建学の精神の具現化に係る 原点回帰と理念継承	i	カトリック大学や看護大学にふさわしい、良識ある大学人・組織人としての意識醸成。	・研修会開催年に2回、出席率95%以上(オンライン出席含む)	ミッション会議 カトリックセンター	・全教職員を対象とした建学の精神に関する研修会(年に2回)(カトリックセンター) ・建学の精神「カトリックの愛の精神」を具現化する活動の実施(クリスマスバザー、カトリック教会と連動した慈善活動、学生との協同活動含む)(カトリックセンター)	・建学の精神に関する研修会を9月、3月に開催した。9月は令和4年度から始まる新カリキュラムと建学の精神との関連を理解することを目的とし、ロイアカデミア看護学研究センターと協働で開催(出席率96.5%)。3月は教皇の回勅「兄弟の皆さん」を題材とし、カトリック福岡教区長のアベイヤ司教を講師として迎えた(出席率:未集計)。 ・コロナ禍を考慮し、学生との対面での活動は控えたが、学生のソロボランティア活動を促進する情報提供等を行った。また、フィリピン就学支援のためのクリスマスバザーの開催、東北のボランティア活動拠点(カリタス南相馬、カリタス南三陸)への支援活動を行った。	90	・全教職員を対象とした建学の精神に関する研修会(年に2回)(カトリックセンター) ・建学の精神「カトリックの愛の精神」を具現化する活動の実施(クリスマスバザー、カトリック教会と連動した慈善活動、学生との協同活動含む)(カトリックセンター)
		ii	看護教育50周年(2023年度)に向けた関連事業の推進。			—	看護教育50周年(2023年度)に向け、実施の方向性(大々的式典は実施せず、写真集、冊子体等を作成)を定めた。	100	実際に企画、編成作業等を行うプロジェクトチームを発令し、対応を進める。
2	経営環境の変化に対応する ガバナンス機能の強化	i	外部評価や監事監査を活用した内外両面のガバナンスチェックなどによって組織運営機能の適正化を図る。		外部評価委員会	外部評価委員会に関しては、よりチェック機能が働くための委員会運営方法を検討するとともに、外部委員から得た評価を各種委員会等において政策に反映させる(外部評価委員会・各種委員会)	外部評価委員会や監事監査は実施したものの、その中で組織運営機能の適正化に明確に資することが出来たとは言えない。	50	外部評価委員会や監事監査の開催に際し、ガバナンスチェックなどの事項も加える。
		ii	学長補佐体制の強化、教授会の役割の明確化などによる学長のリーダーシップの確立。		政策企画会議 教学マネジメント会議 教授会	引き続き、各組織、役職者に与えられた権限と責務を基に学長が大学方針を示す際の補佐を継続する(教学マネジメント会議)	昨年度に引き続き、学長補佐体制として、学長が大学方針を示すための検討を行う教学マネジメント会議の運営、学部長、研究科長その他、本学独自の体制としてプロボスト(プロボスト補)、学長付改革推進統括監の継続発令など、学長補佐体制を継続した(教学マネジメント会議)。	100	引き続き、各組織、役職者に与えられた権限と責務を基に学長が大学方針を示す際の補佐を継続する(教学マネジメント会議)
		iii	機動的能動的な学内組織への改革。		政策企画会議 教学マネジメント会議	引き続き、コロナ禍における特殊案件への対応が必要となること予想される。この困難な時期においても質向上に向けた審議を中心とする委員会等組織で乗り切り、学生満足度の向上を目指す(政策企画会議、教学マネジメント会議)。	年度初めの委員会構成員通知資料には、各種委員会等は、報告事項中心から「質向上」に向けた検討組織への転換を図ること、エンロールメントマネジメント実施に向けた体系的取組みの推進を図ることを明示し、改革への意識を図るとともに、令和4年度からは上記内容を毎月の教授会、教職員連絡会議において表示するものとした(教学マネジメント会議、他)	100	機動的能動的な学内組織への改革については委員会等の統合を通じ実施済みである(教学マネジメント会議)。引き続き、コロナ禍における特殊案件への対応が必要となること予想される。この困難な時期においても質向上に向けた審議を中心とする委員会等組織で乗り切り、学生満足度の向上を目指す(教学マネジメント会議、各種委員会)。
			IR・SD推進室	引き続き、大学経営環境の変化に対応し得る人材育成に適したSDを企画・実施し、職員の意識改革、必要な知識を身に付ける(IR・SD推進室)。	初任者研修として、私立大学情報教育協会の「大学職員情報化研究講習会[基礎講習コース]」を新規入職事務職員に受講させた。	80	教職員全員を対象に、本学が加盟している外郭団体主催の研修会への参加を促す。		
3	大学運営の根幹となる健全な財政基盤の確立	i	収支構造の再構築による安定的な内部留保を継続する。			新型コロナ対策支出を踏まえた上での内部留保につき、検討する。	最終的には内部留保(収入超過)となる見込みである。しかしながら、計画的に意図された結果とは言えないため改善を要する。	50	入学者数の減少による収入減が発生する中、内部留保の確保を目指す。
		ii	予算編成の精度化と戦略的な予算配分で施策的執行。			ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、新型コロナ対策支出もある程度は経常的な費用とした予算編成への策定準備を進める。	新型コロナ対策関連支出を加味した予算措置やその執行が概ね出来たとと思われる。	85	新型コロナも長期化しており、学内の各組織がその対応も勘案した予算措置の常態化を図り、法人全体でより精度の高い予算編成を構築する。
		iii	主要財務比率などの指標を基にした客観的分析による財務計画の策定と実行。	定量的経営判断指標、主要財務比率	IR・SD推進室	引き続き財務比率における目標値を設定。	主な財務比率9項目につき試行的目標値を設定。うち6項目において目標値をクリア。	70	財務比率における目標値を設定し、指標化への具体性客観性を高める。
4	包括的キャンパス整備による魅力ある大学づくり	i	学生の教育・学修環境向上を主眼とした施設設備の拡充と教育効果を高める効率的な機器更新、整備。			新型コロナ対策としての教育環境の整備を最優先とする。	ネット環境改善のため、7号館サーバー内機器を増強。またパソコン室設置PCのソフト更新を実施した。	75	新型コロナ対策も兼ね、ニューノーマルに対応した環境整備を引き続き推進。また、出席管理システムを更新予定。予算措置済み。
		ii	学生及び教職員の安全、安心を基本とした学内環境の点検整備の計画的実施。			学内施設につき、定期点検を順次実施。	2号館ならびに3号館を対象として、専門業者による施設安全点検を実施。	100	5号館の施設安全点検を実施予定。当該年度事業計画のひとつとして予算措置済み。
		iii	将来構想とリンクした隣地取得や新棟整備方策の検討。			※新型コロナ対策に係る支出を優先。	新型コロナ対策に係る支出を優先。	***	1号館跡地につき、聖マリア病院へ売却。
5	聖マリア病院を中心としたグループ法人間連携の堅持	i	グループ法人間における協働体制の深化、推進を目指す。			・連携体制維持の基礎となる、人的交流(役員会レベル、委員会レベル、臨床レベル等)の継続 ・コロナ禍常態化、長期化を前提とした過年度取組む状況の検証的点検(PDCA)	連携体制の基盤となっている既存の人的交流を維持、継続しつつ、新たに、臨床実習施設である聖マリア病院との間における看護専門職の人材育成プログラムとして、臨床と教育とのユニフィケーション(臨床の看護師と、大学の教員との人事交流事業)を構築、令和4年度から看護師2名を大学教員として受け入れた。コロナ常態下にあつては、特に臨床実習の質を担保する観点から、学内委員会組織である「教育の質向上委員会(実習部会)」、並びに「リスク管理委員会(感染拡大予防対策部会)」を窓口として、実習先施設とコロナ感染状況に応じた実習のあり方について過年度の課題検証も踏まえ適時の柔軟的措置を講じた。このことは、学内における感染拡大抑止の点でも、実習先と本学とが協働して学生に対する健康管理への日常的な啓蒙効果として一定の成果があったと思われ、幸いにして本学内でのクラスターは発生していない。	80%(現状の連携体制の維持に加え、新たな取組み実績あり。他方、組織的、定期的な事業評価、改善度合の可視化の必要性)	聖マリア病院を中心としたグループ関連各法人との連携は、今後も本学経営の基軸を成すことから、中期事業計画の主要項目として位置付けるとともに、一方で往々にして羅列的となる取組み実績の点検、評価については、インプット(取組みの事実)のみではなく、アウトプット(取組みの成果)に、より焦点をあてた、定期的な検証を行うこととし、中期事業計画に紐づけされた各種委員会レベルでの意識付けを図る。